震度５強の地震発生を想定した総合防災訓練を実施しました

全住民対象の総合防災訓練を実施

2月16日、全住民を対象とした総合防災訓練を実施しました。寒い時期にも関わらず、小さな子ども連れから高齢者まで、様々な年代の住民約５５０人が参加しました。まずは避難をしてみるということで、避難所までの経路を確認し、非常持ち出し袋を持って避難所へ避難をしました。

今年度は、避難所内に通路を確保し、町が備蓄している仮設トイレやテントの設置など、簡易的な避難所の設営と受付を自主防災組織が行いました。また、介助が必要な人について、保健師によるトリアージを実施。そのほか、防災士会による食料や簡易トイレなどの家庭用備蓄の紹介、加古川消防本部は救急車両と消防車両の展示や水消火器体験、自衛隊は車両展示、協力事業者は、高所作業車、電気自動車の展示や公衆電話のデモ機による体験などにご協力をいただきました。

また、同時に被害発生を想定した庁舎内での対応訓練も行い、町内の様々な箇所の確認に行きました。

問危機管理課
☎０７９-４３５-０９９１

▲災害対策本部には、町内全域からの報告が入ります

▲水は必ず備えてください

▲給水車による応急給水訓練を実施

▲保健師による健康状態の聞き取り調査を実施

▲防災士による簡易トイレなどの備蓄品の紹介

▲各避難所で自主防災組織が受付を行いました

▲公衆電話のデモ機による災害用伝言ダイヤルの体験

▲加古川消防本部が救急車、消防車の展示や水消火器体験を実施

▲防災士による家庭用備蓄品の紹介

▲自主防災組織が簡易的な避難所を設営

▲電気を供給することができるＥＶ車の展示

▲自衛隊は車両やチェーンソーなどの備品も展示

▲電力会社の高所作業車

▲避難所のテントの広さを確認する家族

※総合防災訓練は令和７年度以降も毎年11月第３週に実施予定です。ぜひご参加ください。

蓮池幼稚園

チューリップの咲く日が楽しみだね

昨年11月、赤、白、黄…好きな色を選び、自分たちでチューリップの球根を植えました。

年長児は、年中時の経験を思い出しながら球根を植える姿が見られました。年少児も球根を植えることを知った年長児は「小さい組さんのお手伝いをしたいな」と、張り切って年少児を手伝いました。

「先が尖っている方を上に置いてね」「球根が隠れるくらい土を入れるんだよ」「春になったら咲くよ」と、やさしく声を掛けながら植え方を伝える姿に頼もしさを感じました。

それから毎日、登園するとチューリップの様子を見て「早く咲いてほしいな」「少し芽が出てきている！」と気付いたことを友達や年中、年少児と伝え合っています。きれいなチューリップが咲くのが楽しみだね。どんな色が咲くかな。

▲早く咲いてほしいな

▲やさしく土をいれようね

今ある場所や物をもちよってつくれる居場所

まちづくりアドバイザーがお届けする
まちアド通信
協働推進課住民協働係
☎０７９-４３５-２３６４

ここ数年、地域の居場所づくりがまちづくりの一つのテーマになっています。こどもの居場所・高齢者の居場所など多種多様な居場所が町内にもあります。

最近、夕方のコミセンがどんな様子かご存知ですか。写真はある日の野添コミセンの様子です。町内には４つコミセンがあり、最近は夕方になると小学生たちがやってきて、宿題をしたり、本を読んだり、ボードゲームをしたりしています。野添コミセンの伊田館長に聞くと「もっと机だしていいですか？」や「ボードゲーム貸してください」など、こどもたちなりにその場での過ごし方を工夫しているようです。他のコミセンでも同様のことが起きています。

地域の居場所づくりをする際、どこでだれとどんなふうに立ち上げていくかがみなさん迷われるところです。先のコミセンのようにすでにある場所や物をうまくつかいこなしながら居場所を立ち上げるのも一つの手です。他にも町内に40か所以上ある自治会公民館も会議やイベント以外に使うことは少なく、もっと使える場所かもしれません。ぜひ身近にある場所や物を持ち寄ってみましょう。

▲野添コミセンの様子

【まちづくりアドバイザーとは】　播磨町では、多様化・複雑化する地域の課題やニーズに、より細かく対応するため、2020年度より「まちづくりアドバイザー」を配置しています。自治会活動やコミュニティ活動、自主的なまちづくり活動について専門的な視点から支援します。